

学而第一

子曰、学而時習之、不亦説乎。

有朋自遠方来、不亦樂乎。

人不知而不愠、不亦君子乎。

子曰わく、^{まな} ^{とき} ^こ ^{なら} ^ま ^{よろこ}
 学^{まな}びて時に^{とき}之^これを^{なら}習^まう、亦^また 説^{よろこ}ばしからずや。

^{とも} ^あ ^{えんぼう} ^{きた} ^ま ^{たの}
 朋^{とも}有^あり遠^{えんぼう}方^{きた}より来^{きた}る、亦^また 樂^{たの}しからずや。

^{ひと} ^し ^{いきどお} ^ま ^{くんし}
 人^{ひと}知^しらずして 慍^{いきどお}らず、亦^また 君^{くんし}子^しならずや。

(1-1)

< 子曰わく >

Q : 「子曰わく」とは何ですか。

A : (1) 「子」とは男子の美称、あるいは通称。転じて、ここでは、師に対する代名詞、「先生」というほどの意味です。弟子たちの間では、「子」すなわち先生とは孔子を意味。

(2) 「日わく」とは「言った」の意。

(3) 「子曰わく」とは、先生の言葉、孔子が言ったの意。

< 学びて >

Q : 「学びて時に之れを習う」の「学」とは何ですか。

A : 「学」とは学問のこと。

「学」とは、人のまねをすることから始まって、遂に「なるほどこうであったか」と悟入^{ごにゆう}(すっかり悟りの境地に達すること)するの意。

< 学ぶ内容 >

Q : 何を学ぶのですか。

A : 学ぶ内容は、具体的には、孔子の教団の重要な教科であった、昔の聖人の教え「詩経」と「書経」を読み、「礼」と「楽」を学んで実践に移すこと。

< 時に >

Q : 「時に之れを習う」の「時に」とは何ですか。

A : 「時に」とは、「学ぼうとして学べるときには機会を逃さずにいつでも、然るべきときに、timelyに、四六時中に」の意。時々、occasionally や sometimes ではないようです。

<之れを習う>

Q:「之れを習う」とは何ですか。

A: (1)「習う」とは、「何回も何回も繰り返して復習すること、幾度も練習、実習すること」の意。

(2)何回も何回も繰り返して復習すると、学んだところのものは自分の真の知識として体得される。反復習熟しているうちに理解が深まり、自分のものとして体得される。

(3)「習」とは、鳥のしばしば飛ぶことを意味。「習」の字は、雛鳥(ひなどり)が巣立ちをする前にしばしば羽ばたきの稽古けいこをすることを意味。雛鳥のように、自習を続けることで学んだことが実行に移される。

(4)「理解」したことを、「定着」のための様々な練習(音読練習や書き取り練習、計算・問題練習など)を繰り返してしっかり身につけ、自分のものにするのと、現代的には解釈されます。

<亦た説ばしからずや>

Q:「亦た説ばしからずや」とは何ですか。

A: (1)「亦また～からずや」とは、「それは何と～ではないか」、「どうだ～ではないか」と強くやわらかく話しかけて相手の同意を促すの意。疑問の形式を用いて、結論を強く打ち出す形式。この場合の「亦」は、感嘆詠嘆の意味をもって語調を整え、やわらげる助詞。「～もまた」の意ではない。

(2)「説」は「悦」と同じ。心によるこびを感じる。心中に嬉しく思うこと。

(3)「亦た説ばしからずや」とは、「これまた何と喜ばしい、愉快的ことではないか」の意。

<朋有り遠方より来る>

Q:「朋有り遠方より来る」とは何ですか。

A: (1)「朋」とは「友達」の意。師を同じくする人を「朋」、志を同じくする人を「友」と区別することもあります。ここでは区別はないようです。

(2)「朋有」とは、実際には孔子の門人、あるいは、孔子の学問を慕したう人たちが、遠い所から慕い集まるの意。

(3)「このようにして、知識が豊かになれば、学問について志、道を同じくする友達が遠い所からやって来て、学問について話し合うようになる」の意。

<亦た楽しからずや>

Q:「亦た楽しからずや」とは何ですか。

A: (1)「楽」とは、「悦びが心の外にあふれ、容貌にも現れる」の意。

(2)「楽」は、自分一人の悦びをいう「悦」に対して。門人や学友と共に研究して発明する楽しみ。

(3)学問のよろこびを今日では誰でも知っているが、古代においては必ずしもそうでなかった。孔子はそれを最初にはっきりと指摘した人物の一人。

(4)ただ、学問を学ぶことは難しくたいへんな努力が要る。それほど難しい学問の道ではあるが、その間には楽しいことも混じっている。学問とは楽しいものだと思いつけないで、体験に即して控え目に楽しさを述べるのが孔子の語り口。この温雅な調子が、「論語」の全体の

基調となっているようです。

<人知らずして慍らず>

Q:「人知らずして慍らず」とは何ですか。

A: (1)「人」とは、世人であるが、ここでは、具体的に言えば、自分を挙げて用いてくれない君主王侯のこと。

(2)「人知らずして」とは、「いくら勉強して自分の学徳ができあがっても、この自分を認めてくれない人が世間にはいる。自分の勉強がつねに人から認められるとは限らない。自分が社会に登用されないこともある」の意。

(3)人から知^みめられないことがあっても「慍らず」、つまり怒らない。怨^うまない。腹をたてない。

<亦た君子ならずや>

Q:「亦た君子ならずや」とは何ですか。

A: (1)「君子」とは、学徳ともにすぐれた人、学徳のできあがった人の意。人格の高い人。立派な人。

(2)「君子」とは、元来、位と徳とを兼ね備えた人の意。学徳があって、民を治める者の意。後には、位がなくても、学徳があって人の上に立つ資格のある人を「君子」と称するようになった。

(3)故に、「君子」は「有徳の人」、「有位の人」、「学者」の3つの意味に使い分けるが、現代にはこれに代わるものがない。

(4)明解国語辞典には、「君子」とは、「些^さ細^{さい}なことに感情を動かしたり、誘惑にあって自分の初志を見失ったり、困難に出くわしてくじけたりすることの無い、理想的な人格者」とあります。

— 2011年5月22日林明夫記 —

(1)孔子が言った。学問をして、その学んだところを、復習できる機会を逃さずに、何回も何回も、くり返して復習すると、学んだところのものは、自分の真の知識として完全に消化され、体得される。これはまた、なんと喜ばしいことではないか。このようにして、知識が豊かになれば、道を同じくする友達が、遠い所からまでもやって来て、学問について話しあうようになる。これはまた、なんと楽しいことではないか。しかし、いくら勉強しても、この自分を認めてくれない人が世間にはいるもの。そうした人がいたとしても、怨まない。それでこそ、学徳ともにすぐれた君子ではないか。

(2)・学んだことをいつも繰り返し習っていると、いつの間にか理解が深まって自分のものとなり、自由に働きを表すようになる。これはなんと嬉しいことではないか。

・このように勉強していると、自然と同学同志で遠くから慕って来る者があって、学問について話し合いをする。これはなんと楽しいことではないか。

・修養と学問は自分の力でできても、人との関係は時のめぐり合わせで、必ずしも自分の思うようにはならぬが、さて、世人が自分の学徳を認めてくれなくても、不平不満を抱かない人は、なんと学徳の高い、りっぱな人ではないか。